

# 生分解性マルチの効果確認試験

JA伊達市

真柳 昭夫、佐藤 正幸



試験品① 6.26



試験品② 6.26



試験品① 7.27



慣行品① 7.27



試験品② 9.19



慣行品② 9.19

### 試験目的

生分解性マルチの効果確認試験

### 試験作物及び品種

- ①南瓜(ダークホース)
- ②南瓜(あまほく)

### 試験資材及び数量(規格)

- ①Bio-PAL(0.012mm×95cm×400m) 黒 無孔 1本
- ②コーンマルチII(0.015mm×95cm×400m) 黒 無孔 1本

### 慣行資材

- ①ビオフィレックス
- ②ビオトップ、サンブラックマルチ

### 栽培方法

定植日	収穫日
①5月31日(慣行区・試験区)	①8月下旬(慣行区・試験区)
②6月17日(慣行区・試験区)	②9月中旬(慣行区・試験区)

### 資材使用期間

- ①5月31日～9月上旬
- ②6月17日～10月上旬

### 試験区面積

- ①15,000㎡
- ②6,500㎡

### 試験結果

#### (1)作業性について(慣行品との比較)

- ①試験品は展張時に伸びがあり、作業性は良かった。
- ②試験品は展張時に、伸び・張りがあり使いやすかった。展張中に切れることもなかったため、作業性は問題なかった。

#### (2)作物の生育状況または、収穫への影響

- ①生育途中は慣行品の方がやや大きく見えるが、圃場の傾斜による違いと考えられ問題ない。収穫にも影響はなかった。
- ②初期生育に若干の差を感じたが、生育途中は特に差はなかった。収穫にも影響はなかった。

#### (3)資材の強度・耐久性・崩壊性について

- ①特に差はなかった。
- ②鋤き込み前において、試験品は分解が始まっているように見受けられたが、サンブラックマルチはあまり崩壊が始まっておらず、強度が残っている様子だった。

#### (4)保温効果について

差はなかった。

#### (5)雑草・病害虫の発生について

差はなかった。

### モニター感想

- ①ビオフィレックスは、展張前の状態でやや巻ずれが見られたが、試験品はなかった。試験品は伸びがあるように感じられ、使いやすかった。初期生育は試験区の方がやや遅く感じたが、その後は問題なかった。
- ②試験品は展張時に伸びや張りがあり、作業性が良く感じられた。また、展張中の切れがなかったため問題ない。収穫時には、フィルムが南瓜につくと作業性が落ちるため、分解が始まっている方が良い。試験品の方が薄いためか初期生育が若干遅かったが、収穫には影響なかった。
- ①②サンブラックマルチに比べ、生分解性マルチは価格が高いため、安価な資材があると良い。

### JA担当者の感想(生産資材課 伊藤係長)

以前はサンブラックマルチを中心に使用していたが、製造中止に伴い生分解マルチへ切り替えた経過がある。その結果資材費がコストアップとなってしまったため、安価な生分解性マルチを求めている。今回の試験において、初期生育はマルチが薄い分やや遅く感じられたが、その後の生育状況は試験区が慣行区に追いついたため問題なかった。今後分解性について経過を確認していきたい。

### 今後の使用について

継続して使用したい。

1 高温対策  
2 害虫忌避効果  
3 調光フィルム  
4 9センチ幅  
5 クリネート  
6 マルチ  
7 不織布  
8 育苗資材  
9 畝農資材  
10 その他